

テーマ：陰部洗浄用ボトルの効率的な乾燥法

■ 背景

- 入浴出来ない、あるいはおむつを装着している患者さんでは、陰部への感染症予防の点から、清拭よりも陰部洗浄の方が推奨される。陰部は湿潤かつ菌繁殖の適温環境であるため雑菌が繁殖し易い。さらに、排尿や排便の付着があると、さらに雑菌増殖が促進される。従い、清拭よりも石鹸と微温湯による洗浄の方が、雑菌除去を効率的に行える。
- 陰部洗浄用のボトルは使用后、洗浄・乾燥させてから再び使用する（濡れた状態で放置すると細菌繁殖の原因になるので速やかに、完全に乾燥させる必要がある）。



<出典：看護roo!>



■ 現在の対応法

- 使用するボトル数が多い上に、ボトル型であるが故に嵩張り、乾燥させるためのスペース確保が難しい。
- 洗浄後、バスケットに逆さに立てるなどして乾燥させているが、蛇腹部分の内側に水滴が残りやすい。
- 乾燥に時間がかかり、直ぐに使用できない。



機能アイデア例

- もっと簡易で、移動可能なスタンドのような乾燥機能を有するもの、安価で導入しやすいあること。

■ 使用頻度や市場性に関する情報

- ベッド上排泄の患者に対して1日1回程度、おむつ交換に合わせて洗浄する。所謂寝たきり患者数は35万人程度と推定されている。認知障害患者の増加に伴い、陰部洗浄の機会も増加すると考えられる。
- 病院は無論、介護施設においても陰部洗浄は実施されている。
- デイスポタイプの陰線ボトルも市販されているが、高コストかつゴミが増える点で課題がある。

■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>